

# 重点目標⑤「合計特殊出生率」 政策評価

2025年に県民希望出生率 1.84を実現 《合計特殊出生率》 15～49歳の女性の年齢ごとの出生 率を合計した数値（1人の女性が一 生に産む子どもの数の平均に相当）	年	基準値 (2016)	最新値 (2021)	目標値 (2022)
		実績値	1.59	1.44

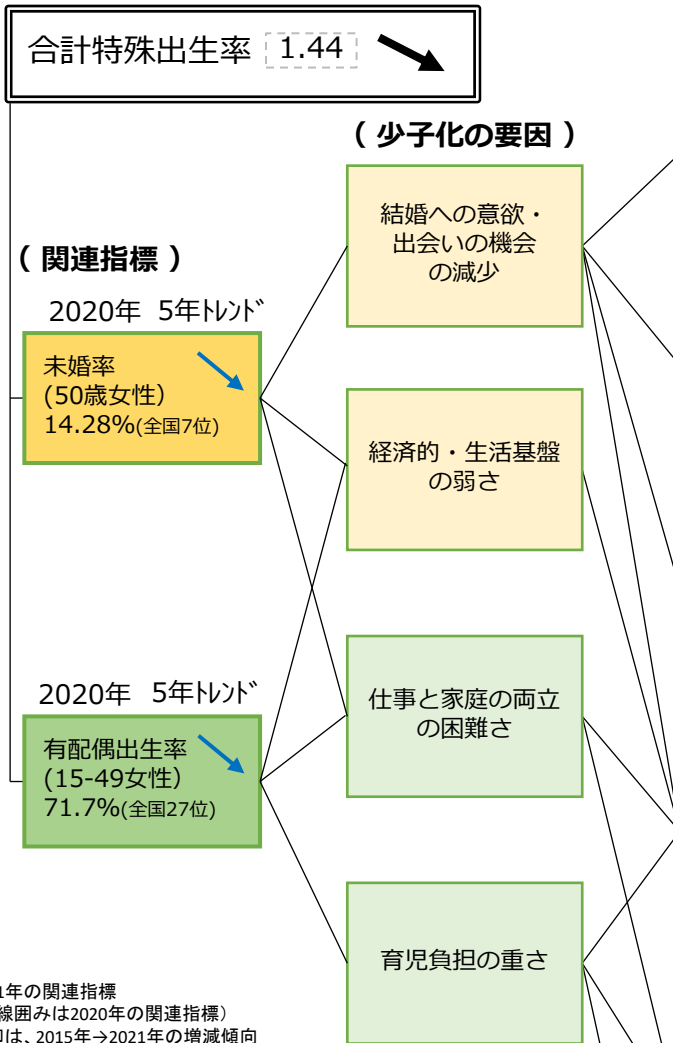
(目標値の考え)

出典: 人口動態統計(厚生労働省)

2025年(令和7年)の県民希望出生率1.84の実現を見据え、プラン2.0の取組成果としては、2022年(令和4年)に合計特殊出生率1.76を目標値とした。

## (重点政策・主な施策)

2021年 3年トレンド改善(↑)・悪化(↓)・変化なし(→)



① ライフデザイン観の形成、妊娠出産知識の向上

**5-4 若者のライフデザインの希望実現**  
・妊娠・出産の安心向上

② 20歳代の人口流出抑制、UIJターンの促進

**1-3 高等教育の振興による知の拠点づくり**  
・県内高等教育機関の魅力向上  
**2-6 郷学郷就の産業人材育成・確保**  
・人口減少時代の産業人材の育成・確保

③ 出会い・結婚機会の増加

**5-4 若者のライフデザインの希望実現**  
・結婚の希望の実現

④ 働き方改革、ワークライフバランス

**2-6 郷学郷就の産業人材育成・確保**  
・働き方改革の推進とAI・IoT等の活用  
**5-2 女性が輝く社会づくり**  
・女性が輝く社会づくり

⑤ 保育環境の整備

**5-4 若者のライフデザインの希望実現**  
・妊娠・出産の安心向上  
・魅力ある子育て環境づくり

⑥ 育児費用(保育教育費、医療費)の支援

**5-4 若者のライフデザインの希望実現**  
・魅力ある子育て環境づくり

【凡例】  
2021年の関連指標  
(破線囲みは2020年の関連指標)  
矢印は、2015年→2021年の増減傾向  
(第3子以降出生割合は2016年→2020年)

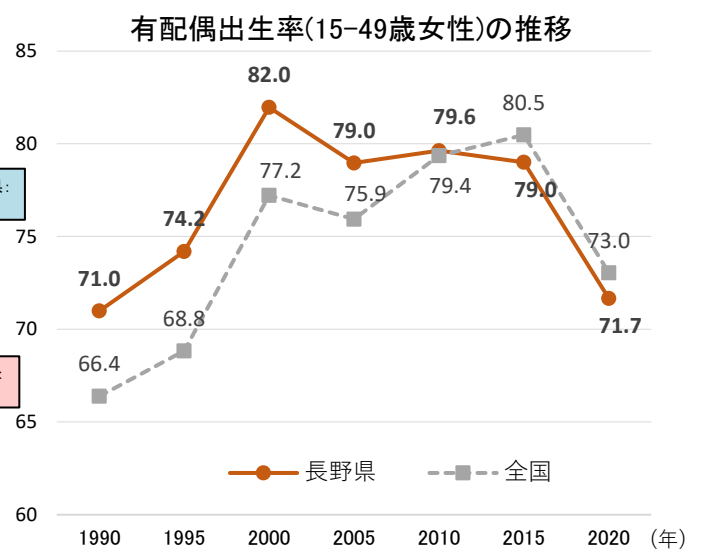
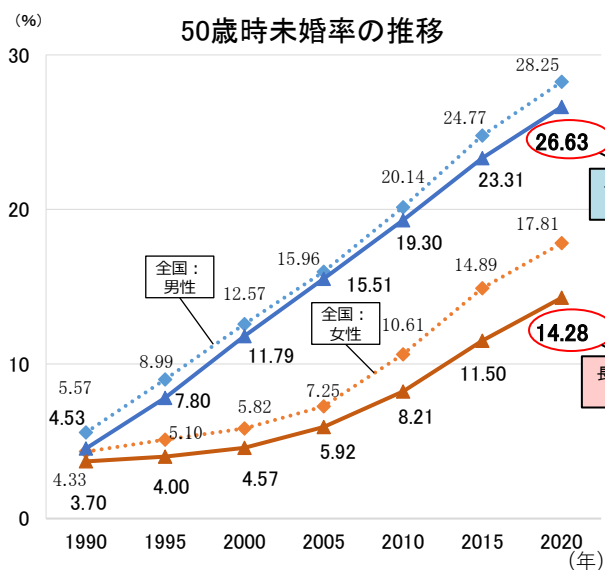
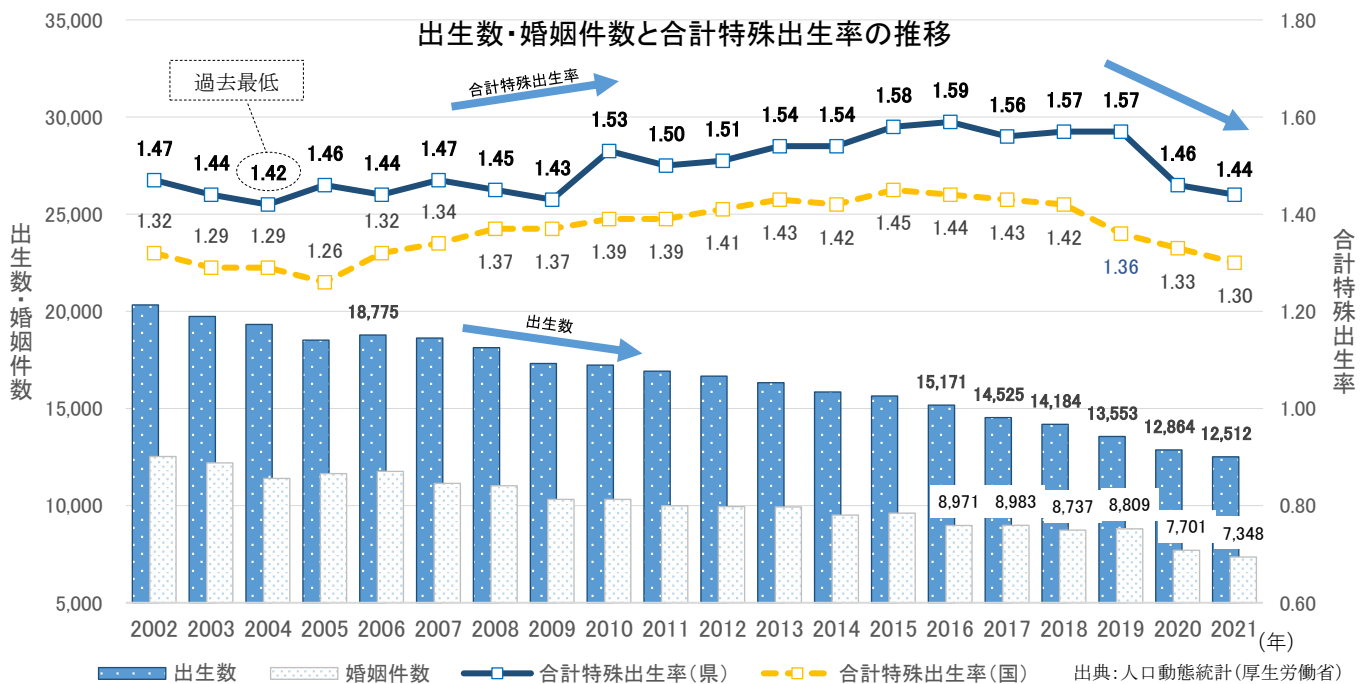
女性人口(15-49)	347,201人	↓
未婚者数(15-49女性)	152,255人	↓
有配偶者数(15-49女性)	179,519人	↓
婚姻件数	7,348組	↓
平均初婚年齢(妻)	29.5歳(全国41位)	↓
出生数	12,512人	↓
第3子以降出生割合	18.9%(全国23位)	→

# 重点目標⑤「合計特殊出生率」 政策評価

- 2021年は前年から0.02ポイント低下し、1.44となりました。なお、都道府県別の順位は16位(前年は19位)です。
- 近年は全国的に低下傾向にある中、横ばいで推移してきましたが、2年連続で低下しています。
- 出生数は、2007年以降一貫して減少しており、5か年平均で毎年△3.8%の割合で減少しています。
- 50歳時未婚率は上昇傾向、有配偶出生率(15-49歳女性)は近年減少しています。

## 【分析】

- 令和3年に実施した調査によると、新型コロナウイルス感染症の影響で結婚に対しては約24%の方が、出産に対しては、約36%の方が後ろ向きになった又はやや後ろ向きになったと答えており、今後更なる少子化が進行する懸念があります。
- 出生率1.76(2022年)を実現するためには、出生数を15,000人程度に回復することが必要であることから、若者の出会いや結婚の希望の実現、子どもを産み育てる世代の安心と幸せの実現を図る取組を推進していく必要があります。



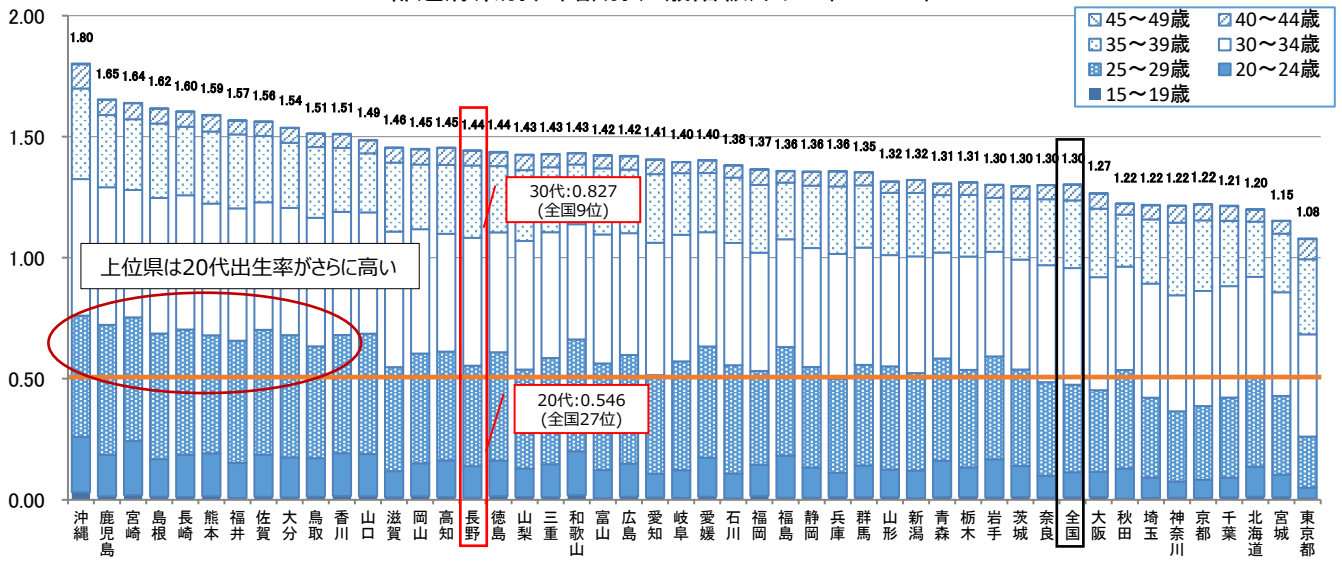
# 重点目標⑤「合計特殊出生率」 政策評価

- 本県の出生率は、30代が0.827 (2021年)と高く(全国9位)、20代が0.546(2021年)と低い(同27位)です。
- 本県の20代の出生率は、全国平均よりは高いですが、上位県はさらに高い傾向があります。
- 20代の出生率は、年によって増減はありますが、概ね減少傾向です。
- 2021年の合計特殊出生率が1.44であり、対前年△0.02ポイントとなったのは、20代の出生率が減少した(2020年：0.567→2021年：0.546(△0.021ポイント))ことが、主な要因です。
- 本県の20代の出生率が低い要因は、平均初婚年齢の遅さなどで、男性30.9歳(2021年)は全国39位、女性29.5歳(2021年)は全国41位です。
- 1990年代後半から2010年代前半にかけて、平均初婚年齢が男性は28歳台から30歳台に、女性は26歳台から29歳台に上昇(晩婚化)しました。

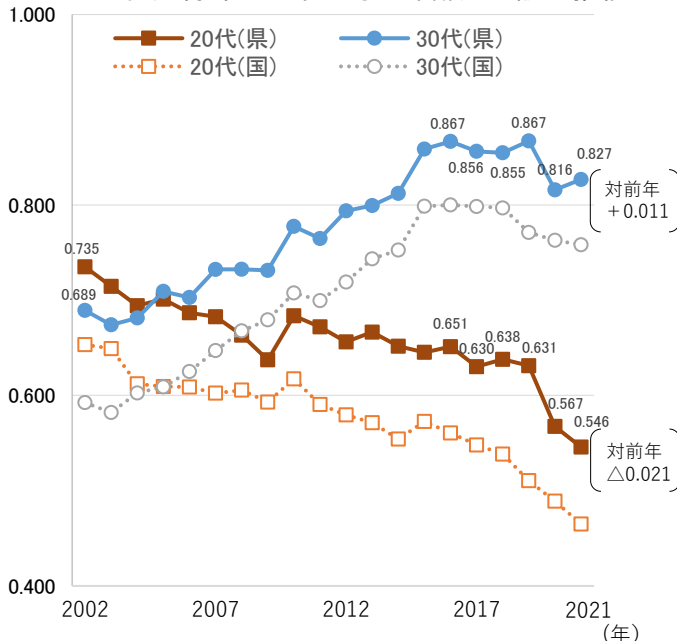
## 【分析】

- 晩婚化が進んだ時期は、バブル経済崩壊後のいわゆる「失われた20年」の期間と一致しています。
- 男性の有業率と女性の平均初婚年齢は負の相関関係(男性の有業率が低くなると女性の平均初婚年齢が高くなる関係)が見られます。
- 「失われた20年」の間に若年層の雇用が不安定化したことが晩婚化に影響している可能性があります。

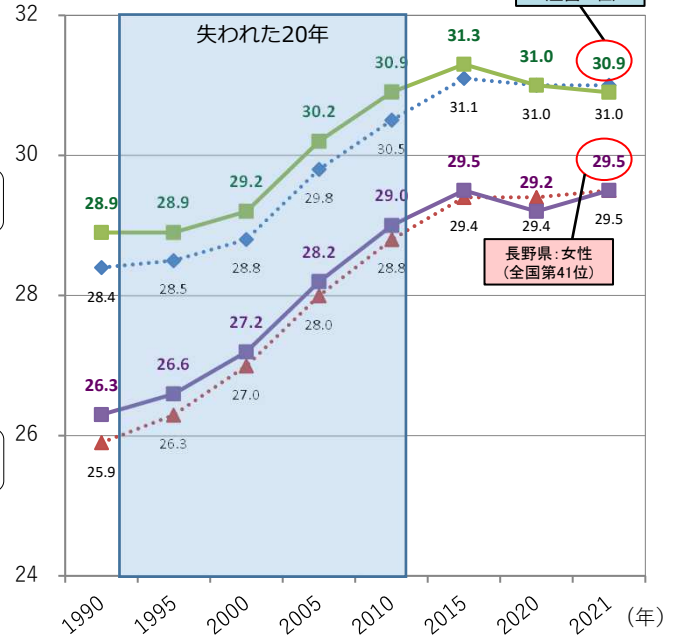
都道府県別、年齢別(5歳階級)出生率 2021年



合計特殊出生率の母の年齢別内訳の推移



平均初婚年齢の推移



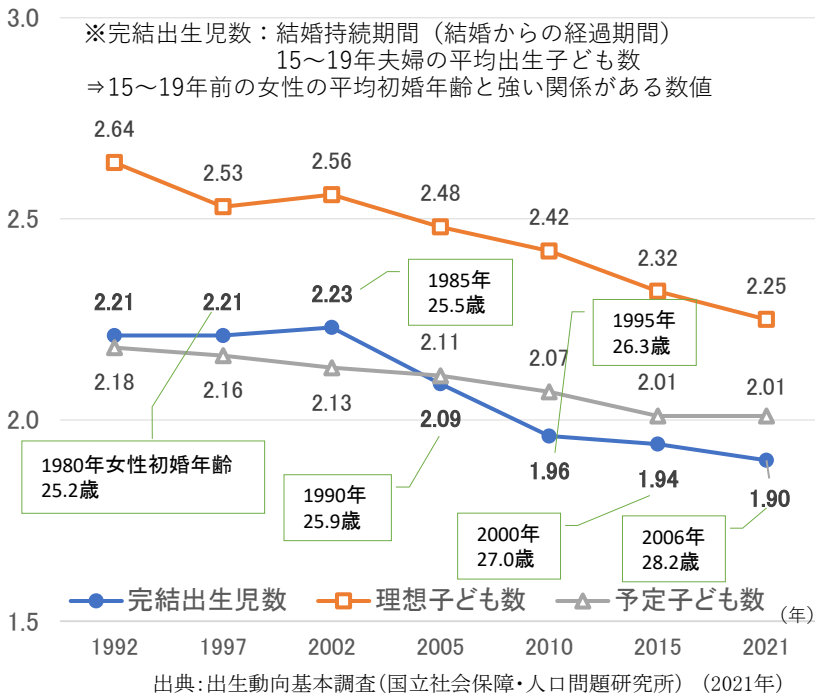
# 重点目標⑤「合計特殊出生率」 政策評価

- 夫婦の完結出生児数は、2010年に2人を切り、将来的にさらに減少が続く可能性が高いです。
- 3人以上の子どもを持つ世帯が5ポイント減少し、子どもがいない世帯が約2ポイント、一人っ子世帯が8ポイント増加しました。
- 夫婦の結婚時の年齢が若いほど、出生子ども数は多くなります。  
〔結婚年齢(女性) 20～24歳：2.08人、25～29歳：1.92人、30～34歳：1.50人、35～39歳：1.16人〕

## 【分析】

- 出産に関しては、「二人目・三人目の壁」が存在しています。
- 子どもを持つことについて、「子どもを持つことは自然なことである」と考える人が減り、「経済的な負担が増える」や「身体的・精神的な負担が重くなる」と考える人が増えています。

### (人) 完結出生児数※、理想子ども数、予定子ども数の推移



### 夫婦の出生子ども数分布の推移 (結婚持続期間15～19年)

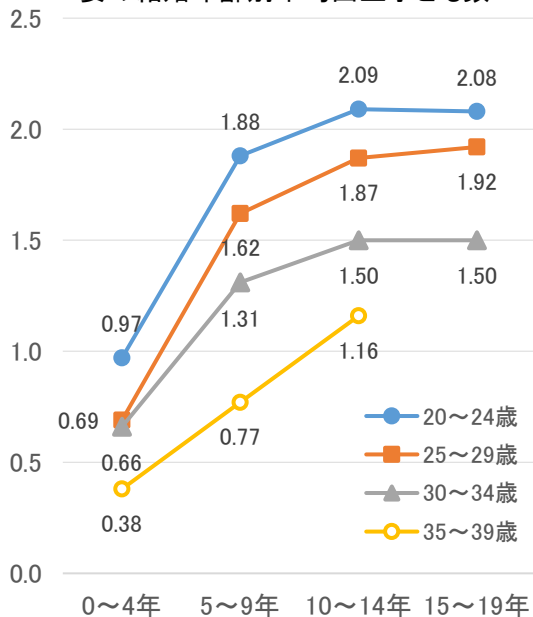
調査年	0人	1人	2人	3人	4人以上	完結出生数
1992	3.1%	9.3%	56.4%	26.5%	4.8%	2.21人
1997	3.7%	9.8%	53.6%	27.9%	5.0%	2.21人
2002	3.4%	8.9%	53.2%	30.2%	4.2%	2.23人
2005	5.6%	11.7%	56.0%	22.4%	4.3%	2.09人
2010	6.4%	15.9%	56.2%	19.4%	2.2%	1.96人
2015	6.2%	18.5%	54.1%	17.9%	3.3%	1.94人
2021	7.7%	19.7%	50.8%	18.5%	3.2%	1.90人
2021-2005	2.1	8.0	-5.2	-3.9	-1.1	(ポイント)

一人っ子世帯が増加

3人以上の子どもを持つ世帯が減少

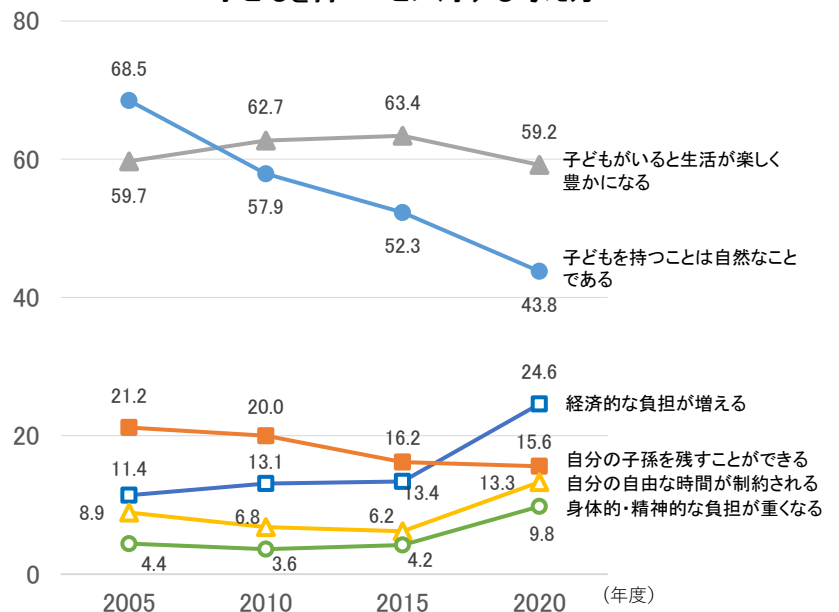
出典：出生動向基本調査 (国立社会保障・人口問題研究所) (2021年)

### (人) 妻の結婚年齢別平均出生子ども数



出典：出生動向基本調査 (国立社会保障・人口問題研究所) (2010年)

### 子どもを持つことに対する考え方



出典：少子化社会に関する国際意識調査(内閣府)